



# フロア形ロスナイセントラル換気ユニット

形名 VL-09ZF

## 据付説明書

販売店・工事店様用

- この製品は住宅専用です。それ以外には使用しないでください。故障の原因となります。
- この製品は24時間換気システムとしてご使用ください。
- この製品の性能、機能を十分発揮させ、また安全を確保するために、正しい据付けが必要です。据付けの前に、この据付説明書をよくお読みください。
- 据付けは販売店・工事店様が実施してください。間違った据付けは、故障や事故の原因になります。
- お客様ご自身の据付けは、故障や事故の原因になります。

別冊の「取扱説明書」はお客様用です。必ずお渡しください。

## 安全のために必ず守ること

誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、本文中や本体に使われている図記号の意味は次のとおりです。次の表示で区分して説明しています。

	<b>警告</b> 誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性のあるもの		<b>注意</b> 誤った取扱いをしたときに整備または家庭・家財などの物的損害に結びつくもの
	禁止		風扇・シヤワーでの使用禁止
	分解禁止		指示に従い必ず行う
	水ぬれ禁止		

### 警告

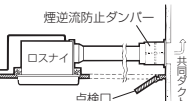
- 高温となる場所や直接炎があたったり、油煙の多い場所、有機溶剤のかかる場所には据付けない（火災の原因）
- 改造や必要以上の分解はしない（火災・感電・けがの原因）
- 製品を水につけたり、水をかけたりしない（火災や感電の原因）
- 浴室など湿気の多いところには本体・壁スイッチを据付けない（感電・漏電の原因）
- 交流100Vを使用する（直流や交流200Vを使用すると火災・感電の原因）
- 外気の取り入れは、燃焼ガス等の排気を吸い込まない、積雪で埋もれたりしない位置を選ぶ（新鮮な空気を取り入れられず、室内が酸欠状態になる原因）
- 本体の据付けは十分強度のあるところを選んで確実に行う（落下によるけがの原因）
- 端子台接続部は指定の電線を使用して、抜けないように確実に接続する（接続に不備があると火災の原因）
- 電気工事は電気設備の技術基準や内線規程に従って必ず専門の電気工事店（電気工士）が安全・確実に行う（接続不良や誤った電気工事は感電・火災の原因）
- 据付け後長期使用しないときは、必ず分電盤のブレーカーを切る（絶縁劣化による感電や漏電火災の原因）
- 端子台カバーは電気工事後必ず取付ける（ほこり・湿気などの浸入による漏電・火災の原因）
- メタルラス張り、ワイヤラス張りまたは金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないように据付ける（漏電した場合火災の原因）

### 注意

- 天井据付け専用です。壁には据付けない（落下によるけがの原因）
- 据付けの際は手袋を着用する（けがの原因）
- ダクト配管は屋外に向かって1/30以上の下りこう配になるように取付け、断熱処理を確実に行う（雨水の浸入による感電・火災や家財等を濡らす原因）
- 室外側ダクトには必ず断熱ダクトを使用する。準寒冷地においては室内側のダクトにも断熱ダクトを使用する（結露により家財等を濡らす原因）
- φ100V管やφ100スパイラルダクトを使用する場合は根元部まで断熱する
- 壁の給・排気穴に雨水がかかる場合は、専用のシステム部材のフードを取付ける（雨水の浸入による感電・火災や家財等を濡らす原因）
- 下記の使用条件を超える地域・場所には据付けない  
外気温：-10～40℃  
本体周囲および還気温湿度：0℃～40℃、相対湿度80%以下かつ最低外気温条件（-5℃）にて露点温度10.7℃（20℃、相対湿度55%相当）となる絶対湿度以下  
使用条件を超えた場合、結露水が滴下することがあります。

### 規制

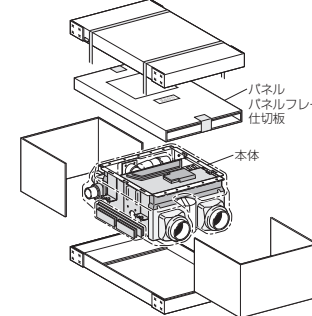
- 共同ダクトへ排気する場合は、建築基準法施工令により、2mの鋼板立上がりダクトを取付けるか、システム部材の煙逆流防止ダンパーおよびその点検口を必ず設けてください。
- システム部材の使用については、地区により異なる規制を受ける場合がありますのであらかじめ所轄の官公庁（特に消防署）にご相談ください。
- ジャバラの使用については、地区により異なる規制を受ける場合がありますのであらかじめ所轄の官公庁（特に消防署）にご相談ください。



### お願い

- 1.寒冷地（次世代省エネ基準 I地区）には据付けしないでください。（パネル表面に水が付着し、製品本体から水が滴下します）
- 2.糞の多く発生する地域では防虫網（10メッシュ）付フードの使用をおすすめします。使用しない場合、製品から水が滴下することがあります。防虫網付フードはメンテナンスが可能な位置に取付けてください。
- 3.製品はベッドから離して設置することをおすすめします。（就寝時に製品の運転音や冷風を感じるおそれがあります）
- 4.内蔵のフィルター清掃のため、掃除のしやすい場所に設置してください。

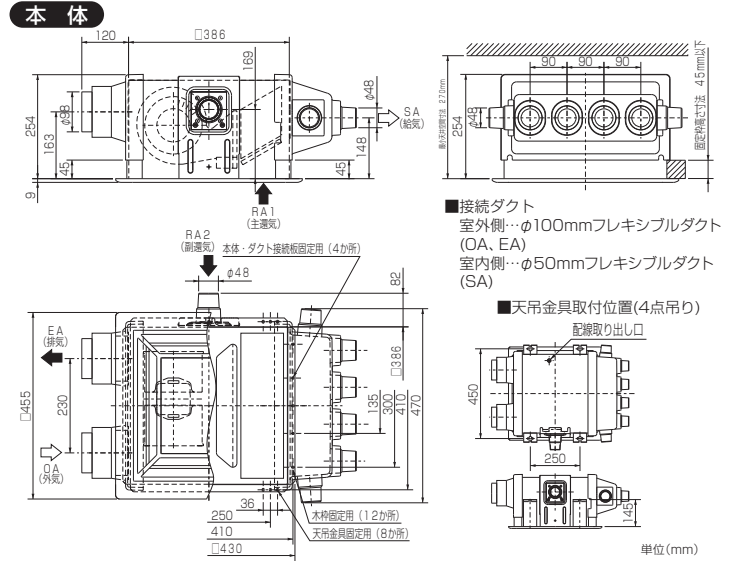
## 開梱



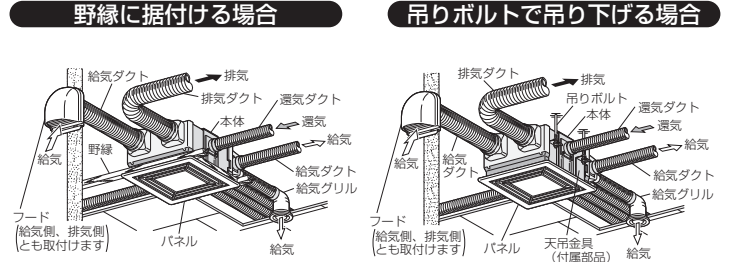
### ■同梱品一覧

- 副送気口……………1個
- 副送気口結露防止用……………1枚
- 副送気口取付ねじ……………4本 (4×8)
- キャップ……………3個
- 木ねじ……………19本
- ワッシャー……………8個
- ゴムクッション……………8個
- 天吊金具取付ねじ……………11本 (4×8)
- 結露防止用テープ……………2本 短……………7本 小……………1本
- 天吊金具……………4個
- パネルフレーム取付ねじ……………5本 (4×8)

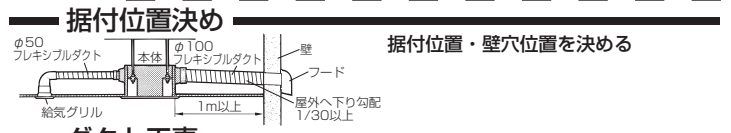
## 外形寸法図



## 据付例

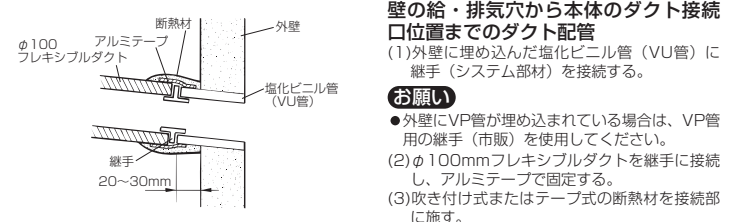


## 据付方法



## ダクト工事

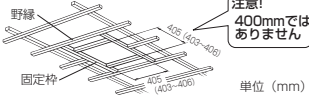
- ダクト配管は屋外に向かって1/30以上の下りこう配になるように取付け、断熱処理を確実に進行  
雨水・雪等の浸入による感電・火災の原因
- φ100V管やφ100スパイラルダクトを使用する場合は根元部まで断熱する



- 次のようなダクト工事はしないでください。（風量低下や異常音発生の原因になります）
- 極端な曲げ
- 多数の曲げ
- 吐出口のすぐそばでの曲げ
- しぼり

野縁に据付ける場合

野縁の組立て



注意!  
400mmではありません

単位 (mm)

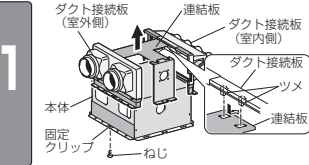
固定枠の取付け

- 左図の寸法になるように、固定枠を野縁の下端の高さにそろえて取付ける。

お願い

- 固定枠に使用する材料の角寸は45mm以下としてください。

本体の据付け

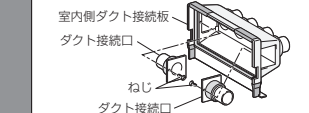


ダクト接続板と連結板の取りはずし

1. 固定クリップについているねじを本体からはずす。(2か所)
2. ダクト接続板のツメから連結板をはずす。
3. ダクト接続板をそれぞれ本体から取りはずす。

お願い

- 取りはずした連結板は④で使用します。なくさないようにしてください。



ダクト接続

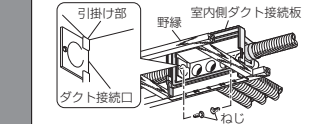
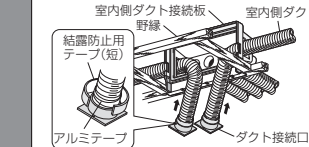
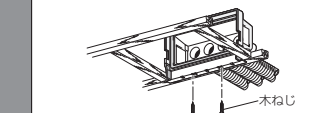
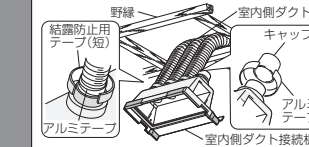
室内側ダクト接続

1. 室内側ダクト接続板両側面のダクト接続口を取りはずす。
- ねじ各1本をはずす。
2. 室内側ダクトを図のようにダクト接続口に差し込む。
3. ダクト接続口とダクトのすき間を市販アルミテープで固定する。
4. アルミテープの上から結露防止用テープ (短) を巻く。

<使用しない室内側ダクト接続口がある場合>  
室内側ダクト6本のうち4本を使用する場合などは、付属のキャップを、使用しないダクト接続口にかぶせアルミテープで固定する。

お願い

- 2本以下での使用は行わないでください。
5. 室内側ダクト接続板を固定枠の下側からあてがい、木ねじ2本で固定する。

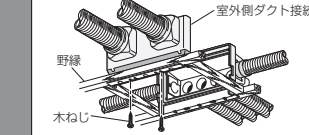
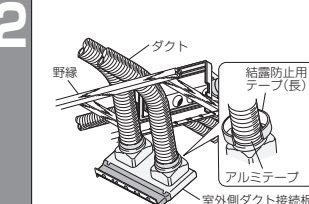


6. 室内側ダクト接続板の両側面から室内側ダクトを図のように引き込みダクト接続口を差し込む。
7. ダクト接続口とダクトのすき間を市販アルミテープで固定する。
8. アルミテープの上から結露防止用テープ (短) を巻く。

9. ダクト接続口を元の位置に戻し (1.の取りはずし作業の逆を行う)、ねじ2本で固定する。

室外側ダクト接続

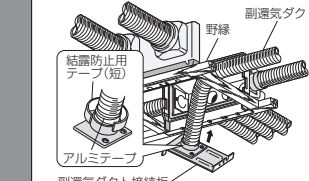
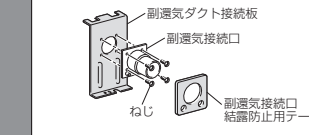
1. 室外側ダクトを図のようにダクト接続口に差し込む。
2. ダクト接続口とダクトのすき間を市販アルミテープで固定する。
3. アルミテープの上から結露防止用テープ (長) を巻く。



4. 室外側ダクト接続板を固定枠の下側からあてがい、木ねじ2本で固定する。

副選気ダクト接続

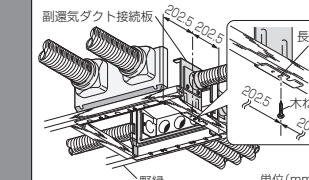
1. 副選気ダクト接続板に副選気接続口をねじ4本で固定する。
2. 副選気接続口に結露防止用テープを貼り付ける。
3. 副選気ダクトを左図のようにダクト接続口に差し込む。
4. ダクト接続口とダクトのすき間を市販アルミテープで固定する。
5. アルミテープの上から結露防止用テープ (短) を巻く。



6. 副選気ダクト接続板を固定枠の下側からあてがい、木ねじ1本で固定する。

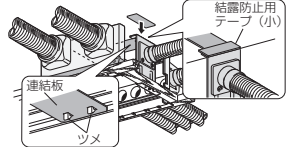
お願い

- 副選気接続は、必ず行ってください。機能・性能が十分に発揮できない場合があります。



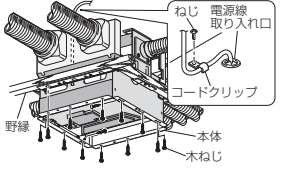
# 据付方法 つづき

### 3 接続板の固定



- ダクト接続板のツメに接続板を差し込み固定する。
- 副還気ダクト接続板と接続板の合わせ部に左図のように結露防止用テープ(小)を貼付ける。

### 4 本体の固定



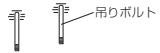
- 1.電源線を本体天面の電源線取り入れ口へ通す。
- 2.コードクリップをいったんはずし、電源線をコードクリップで固定する。

**お願い**

- 電源線の長さは本体を床までおろせる程度の余裕を作っておいてください。
- 3.本体を押し込む。
- 4.木ねじ14本で固定する。(垂直12本、水平2本)

## 吊りボルトで吊り下げる場合

### 吊りボルト埋め込み



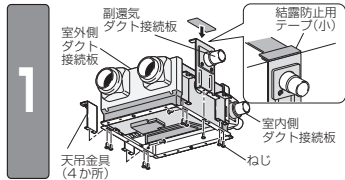
- 市販の吊りボルト(M8)を埋め込む。(外形寸法図の「天吊金具取付位置」を参照)

### 副還気ダクト接続



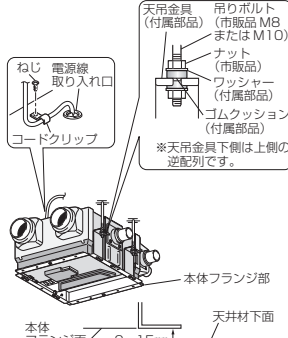
- 1.副還気ダクト接続板に副還気接続口をねじ4本で固定する。
- 2.副還気接続口に結露防止用テープを貼り付ける。

### 本体を吊る



- 天吊金具の取付け**
- 1.副還気ダクト接続板と接続板の合わせ部に左図のように結露防止用テープ(小)を貼付ける。
  - 2.天吊金具4個を本体に天吊金具取付ねじ10本で取付ける。(垂直8本、水平2本)(外形寸法図の「天吊金具取付位置図」を参照して、天吊金具を取付ける)
  - 3.副還気ダクト接続板を本体に天吊金具取付ねじ1本で固定する。

### 2 本体を吊る



**お願い**

- 電源線の長さは本体を床までおろせる程度の余裕を作っておいてください。

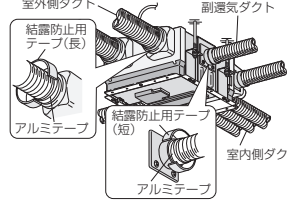
- 2.天吊金具を吊りボルトに通す。
- 3.本体が水平になるように付属のゴムクッション、ワッシャーおよび市販のナットで固定する。

**お願い**

- 本体のフランジ部下面が天井材下面より上側に15mm以内に入るように本体を固定してください。

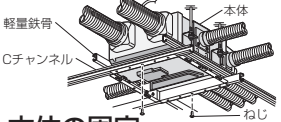
### 3 ダクト接続

(「野線に据付ける場合」のダクト接続も参照)



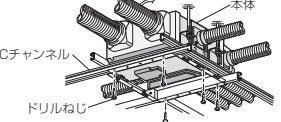
- 1.室内側、室外側ダクトと副還気ダクトをダクト接続口に差し込む。
- 2.ダクト接続口とダクトのすき間を市販アルミテープで固定する。
- 3.アルミテープの上から結露防止用テープを巻く。

### 軽量鉄骨を組む



- 軽量鉄骨と開口部補強用のCチャンネルで左図のように組む
- 固定クリップについているねじを本体からはずしてください。(2か所)

### 本体の固定



- 市販のドリルねじ5本で固定する。

# 電気工事 つづき

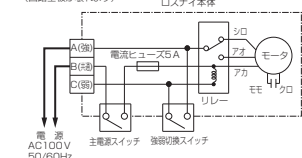
### ■結線図

※太線は有資格者である電気工事士にて施工してください。

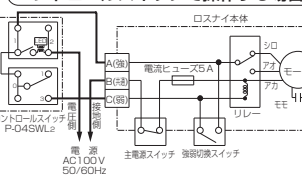
### 100V専用・誤結線注意

#### 本体スイッチで操作する場合

※本体結線図A(強)-C(弱)間のAC100V印加は絶対におやめください。(回路基板が壊れます)



#### コントロールスイッチで操作する場合



### 2 結線をする

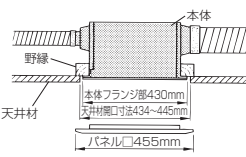
- 結線図のとおり端子台に結線をする。(適用電線:VVVFケーブル単線φ1.6以下)
- システム部材のコントロールスイッチを使用する場合は、本体の主電源スイッチは「ON」に、強弱スイッチは「強」に設定する。

### お願い

- 市販のスイッチを使用する場合も、必ず結線図に従ってください。(スイッチへの結線部分と渡り線が異なり、誤結線となる場合があります)
- 誤結線により、内蔵リレーのチャタリングが発生する場合があります。このとき他の電気製品(医療機器含む)に電波傷害が生じる可能性がありますので、必ず結線図に従ってください。

### 2 元通りに端子台カバーを閉じる

### 天井材を貼る



- 天井材の開口は□434mm~□445mmの範囲であける

### パネルフレーム・パネルの取付け

### 1 パネルをはずす

- 1.パネルの「PUSH」(2か所)を指で押す。
- 2.パネルをあげる。
- 3.パネルを下へ下げる。
- 4.パネルフレーム側へ寄せて、軸部からはずす。
- 5.上へ引き出す。

### 2 パネルフレームの取付け

- 1.付属のパネルフレーム取付ねじ4本を本体に仮止める。
- 2.パネルピースの長穴部分4か所を仮止めた取付ねじにはめ込む。

**お願い**

- パネルフレームの取付方向には方向性があります。4か所のパネルピースと取付ねじを合わせてください。
- 3.パネルフレームを押し上げ、天井に密着させて仮止めたねじを締め付け固定する。

### 3 パネルの取付け

- 1.パネルをはずした逆の順序でパネルを取付ける。
- パネルをパネルフレームの軸部に引っ掛ける。
- 2.落下防止用ワイヤーの片端を本体にねじ止める。
- 3.「PUSH」(2か所)を指で押しパネルをとじる。

### ■パネルと天井材を合わせる場合

■ロスナイパネルが天井材と同一で見えの良い取付けかたです。

### 1 天井材の切断

天井材を左図のように切断する。

**お願い**

- 天井材の厚さは9~12mmとしてください。
- 天井材は振動・共鳴防止のため強度のあるものをご使用ください。
- 天井材は重いもの、割れやすいものは使用しないでください。(1.0kg以下)

### 2 パネルの分解

- 1.天井材押え4個をはずす。
- 2.ダンボールパッドをはずす。(ダンボールパッドは使用しません)

### 3 パネルの切断

●図のようにカッター等でパネルを切る。

### 4 天井材の組立て

- 天井材を入れ、天井材押えで固定する。(天井材押えを元通りにねじ固定する)

**お願い**

- 天井材の厚みによって天井材押えの取付方向が異なります。(ガタツキのない方向で固定してください)

## 電気工事

### 警告

- 交流100Vを使用する  
直流や交流200Vを使用すると火災・感電の原因
- 端子台は、指定の電線を使用して、抜けないように確実に接続する  
接続に不備があると火災の原因
- 電気工事は電気設備の技術基準や内線規程に従って必ず専門の電気工事店(電気工事士)が安全・確実に行う  
接続不良や誤った電気工事は感電・火災の原因

この製品は本体スイッチのみで操作する方法と、システム部材のコントロールスイッチ(P-04SWL2など)で操作する方法があります。

### 1 端子台カバーをあげる

- ねじ1本をはずす。

# 据付け後の確認と試運転

## 据付け後の確認

### 警告

- 電気工事は電気設備の技術基準や内線規程に従って必ず専門の電気工事店（電気工事事）が安全・確実に行う  
接続不良や誤った電気工事は感電・火災の原因

- 据付け後、試運転の前にチェック表にしたがって点検します。
- 不具合があった場合は必ず直してください。（機能が発揮されないばかりか、安全性が確保できません）

### チェック表

	チェック項目	不具合時の対策	チェック
据付け	本体の据付け強度は十分ですか？	固定枠や吊りボルトを固定し直します	
	本体が確実に据付けられていますか？	本体固定ねじを締め直します	
	パネルが確実に取付けられていますか？	パネルを取付け直します	
試運転	電圧は100Vですか？	100Vに直します (異電圧を印加すると製品が破損します)	
	スイッチの操作と本体動作は合っていますか？	本体スイッチの設定をし直します ↓ 直らない場合 誤結線です 結線図に従って結線を直します (本体は破損しません。電圧チェック表で確認します)	

## 電圧チェック表

### コントロールスイッチを使用する場合

モード	スイッチ操作	端子間電圧	チェック欄
停止	切	強-共通	0V
	弱		
停止	切	強-弱	0V
	強		
停止	切	共通-弱	0V
	強		

モード	スイッチ操作	端子間電圧	チェック欄
強運転	入	強-共通	100V
	強	強-弱	100V
	強	共通-弱	0V
弱運転	入	強-共通	100V
	弱	強-弱	0V
	弱	共通-弱	100V

### 本体スイッチを使用する場合

端子間電圧	チェック欄
強-共通 (弱はオープン)	100V

※測定した電圧が異なる場合は、誤配線されていると考えられます。通電を停止して、結線図に基づき結線をやり直し、再度チェックをしてください。  
※端子間電圧は、電源電圧の変動により若干異なる場合があります。

## 試運転

- できるかぎりお客様立会いで、試運転を行ってください。

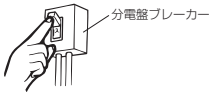
### 警告

- 交流100Vを使用する  
直流や交流200Vを使用すると火災・感電の原因

### 電源を入れる

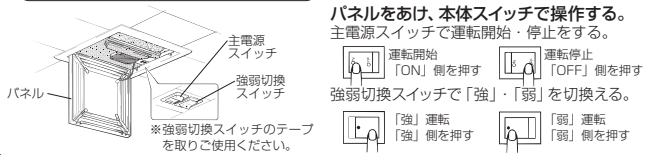
- 分電盤ブレーカを入れる。

1

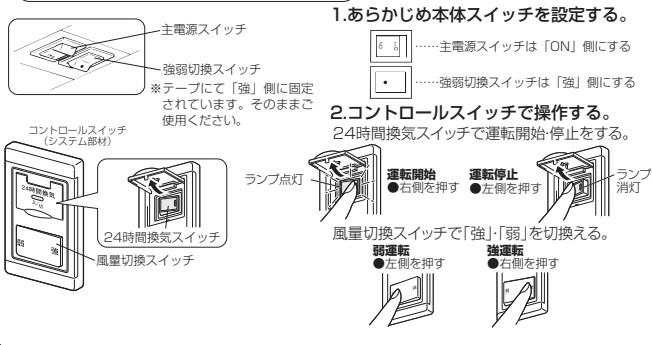


2

### 本体スイッチのみで操作する場合



### コントロールスイッチで操作する場合



### メモ

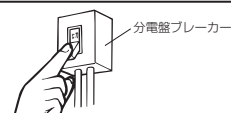
- 本体スイッチが「弱」の場合、コントロールスイッチで「強」・「弱」の切換えはできません。コントロールスイッチが「弱」の場合、本体スイッチで「強」・「弱」の切換えはできません。

3

### 異常な振動・騒音がないか確認する

- 確認後停止する。

4



### 電源を切る

- 分電盤ブレーカを切る。

## お客様への説明

- 分電盤ブレーカとコントロールスイッチの位置をお客様へ説明してください。
- チェック表の結果をお客様へお知らせください。
- この「据付説明書」は、別冊の「取扱説明書」ともにお客様へお渡しください。
- お客様が不在の場合は、発注者（オーナーなど）または、管理者へ説明してください。

三菱電機株式会社

中津川製作所 〒508-8666 岐阜県中津川市駒場町1番3号

この説明書は再生紙を使用しています。